

学校教育現場に社会モデルはどのように導入できるか —教師の解釈過程の解明とアクションリサーチによる教材開発・理論的検討—

別府崇善（東京大学大学院 教育学研究科 博士課程）

1. 問題の所在

障害を社会的な問題として捉える視点が、学校教育の中に十分に浸透していない。学校教育現場での実践やこれらの実践を構成する学術知は、障害を個人の身体的制約・欠陥に見出す「個人モデル」（杉野 2014）を前提としている。しかし、個人モデルは、心身機能の治療・改善を進め実利的な役割を果たす一方で、障害要因を個人に帰属させることで、障害による困難やその解消の責任を、本人や家族に向け、さらに社会システムからの排除を正当化させる（飯野他 2022）。そこで本研究では、社会モデル—障害者が経験する活動上の制約や不利益が生じる要因を、障害者の存在やニーズを十分に考慮に入れることなく編成されている社会のあり方に見出す認識（飯野他 2022）に着目する。

教育という介入は、より望ましい主体への変化を要請する意味論の中にあり（仁平 2009）、教師は制度的・構造的制約の中でこうした目的を戦略的に達成しようとしている（伊佐 2009）。一方で、社会モデルは、子どもではなく環境の変化を求め、個々の教師には裁量がない教育の制度や構造自体にも変化を求める。そのため、社会モデルは教師を取り巻く制度・文化・規範と対立する可能性が高く、学校教育への導入において、学校と親和性の高い個人モデルが部分的に介在する可能性を指摘できる。しかし、社会モデルと個人モデルが素朴に折衷されることは、個人と社会のそれぞれ可変的なところを変えていく、「歩み寄り」という妥当な主張のように見えて、可変／不可変の線引きにすでに既存の権力関係が働いていることを後景化する点や、社会の不可変な部分による不利益を個人に帰責させることが容易になる点で、有害ですらある（飯野他 2022）。そこで本研究では、社会モデルが学校教育現場に導入されるとき、教師は社会モデルをどのように解釈するのか、そこには既存の学校教育の価値規範とどのように結びつくのかを明らかにする。

2. 調査と分析の方法

本研究が分析の対象とするのは、関西圏の自治体 X との連携のもとで収集されたデータである。連携による実施内容は主に以下の 2 つによって構成される—1) 協定校（小学校 2 校）での取り組み、2) 教員研修。筆者は、1) と 2) にてそれぞれ、参与観察とインタビューを組み合わせたフィールドワークを実施した。調査の実施にあたっては、自治体 X とは協定を結び、インタビューについては教師本人より承諾を得た。データは、帰納的なコーディングと演繹的なカテゴリー化を繰り返しつつ、先行研究の知見と照らし合わせるデータに根差した分析を行った（佐藤 2008）。

3. 結果

教師がどのように社会モデルを解釈しているのかについて、教師は、既存のルールや学び方を子どもたちの成長を妨げる障壁として認識しており、こうした障壁の調整を支えるためのロジックとして、社会モデルを解釈していた。教師が認識する様々な解決すべき事項は、既存のルールや学び方が、多数派に合わせて作られていることから特定の子どもにとって障壁となることで生じているとして、こうしたルールや学び方を調整することの理由を、社会モデルに見出していた。その際、何かを達成する、誰かと共有して学ぶといったより高次の教育の目的に寄与する形で社会モデルは参照されていた。次に、こうしたルールや学び方を調整するとき、その調整の方法が教師個人に委ねられる傾向が示唆された。教師は、自身の勤務経験を参照しながら、現在の秩序を維持しながら社会モデル的な自身の認識を保持していた。最後に、社会モデルの理解が難しいと言及する教師の語りを検討した。社会モデルが、実現不可能な要望を前提としていること、社会モデルによって生じる多様な状況について責任を担う段階に子どもが至っていないことから、社会モデルをどのように理解してよいかわからないとする教師の迷いが浮かびあがった。

4. 考察と今後の研究に向けて

以上の分析結果を踏まえ、1)社会モデルのロジックのもとでなされる支援が、標準的な子ども像への矯正を目的とした特別な処遇ではなく、社会的障壁を取り除く教師の責務として認識される可能性が見られたこと、2)教育の場に親和的な概念によって、社会モデルが、個々人に適した学習環境の整備として読み替えられる可能性に留意する必要があること、3)社会的障壁の解消主体と解消責任の両方を自らに請け負う規範が教師間で共有されている可能性を指摘した。以上の点に留意して、社会モデルが学校教育現場に導入される過程を丁寧に明らかにし、その知見を重ねていくことが今後求められる。

共同研究者 飯野由里子（東京大学 特任教授）